氏　　名	染谷　奈々子
学 位 の 種 類	博士(看護学)
報　告　番　号	甲第 111 号
学 位 記 番 号	看博第 47 号
学位授与年月日	令和 6 年 3 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
論　文　題　目	医療的ケアを必要とする子どもと家族へのケアとキュアを融合した小児看護専門看護師の実践 Integrating Care and Cure for Children and Families Requiring Medical Care: Insights from Certified Nurse Specialists in Child Health Nursing
論 文 審 査 委 員	主査　教授　中野　綾美　(高知県立大学) 副査　教授　藤田　佐和　(高知県立大学) 教授　畦地　博子　(高知県立大学) 教授　大川　宣容　(高知県立大学)

論文内容の要旨

〔研究目的〕医療的ケアを必要とする子どもと家族に対して、小児看護専門看護師が行うケアとキュアを融合した実践とはどのようなものであるかを明らかにすることである。

〔研究方法〕研究デザインは質的記述的研究である。研究協力者は、小児看護専門看護師であり、データ収集期間は 2018 年 3 月から 2019 年 2 月であった。データ収集は、最小限に構成したインタビューガイドを用いて、2 回のインタビューを行った。インタビューで得られたデータは、Benner（1994／2006)を参考にして分析を行った。倫理的配慮として高知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

〔結果〕研究協力者は、小児看護専門看護師（認定後 1 年～15 年、平均 8.3 年）16 人であった。インタビュー1 回あたりの平均時間は 1 時間 36 分であった。インタビュー内容を分析した結果、医療的ケアを必要とする子どもと家族へのケアとキュアを融合した小児看護専門看護師の実践（以下、融合的ケア）には、23 のサブテーマの共通性から生成された 7 つのテーマ（1)【多様なエビデンスを活用してケアの必要性を弁別し、子どもを護る】(2)【状況を全体的に捉えながら、医療的ケアを行う子どもの主体性の発揮と可能性を開く】(3)【子どもの特性や発達段階、治療と生活の兼ね合いを考慮しながら、最適な療養生活に導く】(4)【治療や療養方法を説明し、子ども・家族・医療者の意向を調整して、状況を改善する】(5)【治療の効能を手がかりに、子どもの意向を読み取りながらその子に合った独自のケアを創る】(6)【治療や療養生活を見通しながら、母親の力の育成や自分らしさを保つことを後押しする】(7)【治療を見通して、子どもと家族の意向を確かめ

ながら、子どもの生活を守る地域ネットワークにつなげる】がみられた。
〔考察〕小児看護専門看護師の融合的ケアには、(1) 全体的、総合的、俯瞰的な捉えに根差す、(2) 多様なエビデンスを活用したケアの実施、(3)「無害の原則」を重視した倫理的実践、(4) 子どもを護り、子どもの生きる力の発揮を支える、(5) 医療的ケアを生活の中に組み込み学校生活に繋げる、(6) 治療や療養法の子ども・家族・医療チームへの説明と異なる意見の調整、(7) 協力体制を形成してオーダーメイドのケアを創造する、(8) 子どもだけでなく、母親・家族の力も育む、(9) 母親・家族が自分たちの時間や生活を持てるように支援する、(10) 地域へ視点を拡げて地域ネットワークづくりに取り組む、という特徴が顕れた。ケアリングに根ざした小児看護専門看護師の融合的ケアは、子どもと家族を気づかい、実践を通して情報を把握しつつ総合的に思考を拡大しながら行うものであると考えられた。小児看護専門看護師は子どもと家族に関心をもつ力を高めて繋がり、スタッフと協働する関係を築く実践知を獲得していることが示唆された。

審査結果の要旨

本研究は、小児看護専門看護師として、子どもにとっての最善の看護を実践し探求してきた染谷氏が、小児看護専門看護師の高度実践看護を可視化したいという長年の関心事に根差したものである。2024 年現在、小児看護専門看護師は 304 人誕生しているが、小児看護専門看護師の実践に関する研究は未だ蓄積されていない。本研究の独創的な点は、小児看護専門看護師のケアとキュアを融合した実践（以下、融合的ケア）を展開する力に注目し、社会的課題となっている医療的ケアを必要とする子どもと家族のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献する高度実践看護に焦点を当て、質的に解明することに挑戦した点である。

小児看護専門看護師 16 人に対して２回/人のインタビューを行い、豊なデータに基づいて個別分析と全体分析による丁寧な分析を行っている。

本研究の結果、医療的ケアを必要とする子どもと家族への融合的ケアの 7 つのテーマ【多様なエビデンスを活用してケアの必要性を弁別し、子どもを護る】【状況を全体的に捉えながら、医療的ケアを行う子どもの主体性の発揮と可能性を開く】【子どもの特性や発達段階、治療と生活の兼ね合いを考慮しながら、最適な療養生活に導く】【治療や療養方法を説明し、子ども・家族・医療者の意向を調整して、状況を改善する】【治療の効能を手がかりに、子どもの意向を読み取りながらその子に合った独自のケアを創る】【治療や療養生活を見通しながら、母親の力の育成や自分らしさを保つことを後押しする】【治療を見通して、子どもと家族の意向を確かめながら、子どもの生活を守る地域ネットワークにつなげる】を解明している。また、その特徴を探求し、10 の特徴を浮き彫りにしている。さらに、他の分野の専門看護師のケアとキュアを融合した看護実践に関する先行研究と比較し、共通性と差異性について探究し、ケアリングに根ざした小児看護専門看護師の融合的ケアは、子どもと家族を気づかい、実践を通して情報を把握しつつ総合的に思考を拡大しながら行うものであると結論づけている。

本研究の成果は、染谷氏の小児看護専門看護師の体験を共感的に推察し考察する力および研究に向かう粘り強い姿勢、探究心、丁寧な分析によるものである。

以上のことから、本審査委員会は、博士論文審査基準に基づき提出論文を審査した結果、

本論文は、研究への着眼点、研究への着実な取組、研究成果の独創性、論理的な論証、研究成果の有用性と実践への適応可能性から、小児看護学の発展へ寄与する学術的価値があり、博士（看護学）の学位授与に値する研究成果であることを認めた。今後、染谷氏には医療的ケアを必要とする子どもと家族のみならず、様々な健康障害と共に生きる子どもと家族へのケアとキュアを融合した小児看護専門看護師の実践の研究を富み重ね、小児看護専門看護師の実践知を蓄積していくこと、高度実践看護師の教育プログラムの開発へと発展させていくことを期待している。